

自覚する教会

*前向きに生きようと努力する教会



左の絵は、小教区評議会以外の場においても、小教区評議会と同じテーマについて話し合っていることを表している。

意識の変化

信徒への質問「教会とは何ですか？」

第二バチカン公会議以前の答え

「ミサが捧げられる建物（聖堂）」、「教皇様や司教様・神父様たちにより成立している、信者を天国へ導いてくれる神の代理者たちのグループ」



信徒への質問「教会とは何ですか？」

公会議後の答え

「教会は私たち信者全員で作っているのだ」、「私たち自身が教会なのだ」



公会議が信徒たちの意識変化をもたらし、世界中の教会で、「教会とは何か？」と、真剣に問い始めた。このような流れを受け、鹿児島教区においても糸永司教様の提示された数々の具体策が、「全員参加型の教会」へのきっかけとなった。

全員参加型の教会へといたる道のり

様々な疑問や困難な問題へ直面

例えば、
なぜこれまでどおりの教会生活ではいけないのだろうか？
なぜ信徒は教会の仕事をしてくれないのだろうか？
なぜ神父様は信徒の意見に耳を傾けてくれないのだろうか？
なぜ教会には男女の差別があるのだろうか？
若者が教会へ近づくようになるにはどうすればよいのだろうか？
「信仰と生活の一致」をめざすためには何をどう改善すればよいのだろうか？
信徒が社会的活動に関心を持つようになるにはどうすればよいのだろうか？など



様々な疑問や問題への回答、または、解決策を見出す努力、そして、一歩ずつ、少しずつでも改善していく必要がある。



全員参加型の教会とは、

全信者が自分たち一人ひとりが動かなければキリストが望まれる教会の動きはストップするのだという意識を持ち、各自に与えられた役割を喜んで引き受けて、全体が希望と活気に満ち溢れている教会

*現実の教会は、まだまだこの「理想」からはほど遠い状況にある。

改革への反応

改革

賛成意見 × 反対意見

何らかの改革を行おうとする際には、必ず意見の衝突が起き、結果、ほとんどの人が、現状の維持、または維持しながら少しずつ変更していく道を選ぶ傾向にある。

教会内の改革においては、信徒であれば、不信任を抱く人が出てきたり、聖職者であれば、不安感から自信をなくしてしまう可能性もある。



改革推進で大切なのは、「見極め」

できれば当事者全員で、この改革を推進すれば教会がはたして改善されるのかどうかについての「見極め」を行うことが大切である。また、もし肯定的な結論が出されたら、一致協力し、その実現へ向けて一歩ずつ進んでいくことも重要である。

*教区シノドスで出された多種多様な意見や切実な希望について、その具体的な「見極め」作業をシノドス推進会議で現在推進中